



# 合併後の佐世保の史跡を訪ねて

## ふるさと再発見

4月1日、新生・佐世保市がスタートしました。自分のまちを知るためにはまずその歴史を知ることが大切です。合併後、先史時代から近代までの史跡の数も増え、本市の歴史文化も一層豊かになりました。これを機に、旧市域と吉井、世知原地区の主な史跡を比べながらご紹介いたします。



△木場浮立（道行き）  
（日宇地区）



△木場浮立（獅子舞）



△北川内浮立  
（世知原地区）



△収穫儀礼「お蔵入れ」  
（吉井地区）

### 主な史跡の位置図



- 吉井行政センター
- 世知原行政センター
- 市役所
- 佐世保駅
- 泉福寺洞窟
- 福井洞窟
- 武辺城跡
- 直谷城跡
- 眼鏡岩
- 御橋観音
- 楠本端山旧宅
- 世知原氏館跡

**市内史跡のあらまし**  
佐世保の歴史は、約3万2千年前から人が住んでいた福井洞窟に始まります。また、相浦川流域は先史遺跡の宝庫で、世界最古の土器が出土した泉福寺洞窟をはじめ、岩下洞穴、下本山岩陰遺跡などがあります。中世の歴史は、相神浦（相浦谷）に武辺城、大智庵城、飯盛城などを築いた宗家松浦氏が中心となります。

吉井地区の直谷城にも、松浦一族の志佐氏が居城していました。これらの一族は、戦国末期に平戸松浦氏の支配下に置かれます。

江戸時代、平戸松浦領内で景色の良い8力所が平戸八景と呼ばれましたが、そのうち御橋観音、眼鏡岩などの5力所が佐世保市内にあります。また、農村では、豊作や雨乞いのために「収穫儀礼」や「浮立」などの民俗芸能が生まれました。

明治22（1889）年に佐世保海軍鎮守府が開設されると、街は急速に発展し、佐世保の街と北松炭田を結ぶため、軽便鉄道や炭鉱専用鉄道が敷設されました。

また、この時期の建造物として、れんが倉庫や石橋群があります。その後、昭和20年の大空襲で市の中心部の大半は焼失しましたが、見事復興を遂げ、現在、港を生かした港湾都市、観光都市、また緑と水の豊かな田園都市として、さらなる発展を目指しています。

## 古代人の暮らし

### 泉福寺洞窟

（場所）瀬戸越一丁目 国指定史跡  
昭和44年に大野中学校の生徒たちによって発見されました。相浦川の浸食と風化によってつくられたといわれ、大きな4つの洞窟から成り立っています。奥行き約5m、南向きで、夏涼しく冬暖かな洞窟は、大昔の人たちにとって住みやすい場所だったようです。昭和45年7月から10年間発掘調査が行われました。その調査結果によると、縄文時代



△泉福寺洞窟



△発掘中の泉福寺洞窟



△福井洞窟



△豆粒文土器

初頭を中心に、旧石器時代の約2万年前から平安時代までの遺物が出土しました。中でも、表面に豆粒に似た文様のある豆粒文土器は、約1万2千年前の世界最古の土器です。そのほか、隆起線文、爪形文など土器の始まりを示す土器が出土しました。

### 福井洞窟

（場所）吉井町福井 国指定史跡  
福井川の南岸に位置し、稲荷神社の背後にある幅12m、奥行き8mの洞窟です。

昭和35年から3度発掘調査が行われ、一番下の層から約3万2千年前の石器が出土した、県内最古の遺跡です。

また、それまで旧石器時代は土器のない時代と言われていましたが、旧石器時代末期の石器「細石刃」と一緒に隆起線文土器が出土しました。この隆起線文土器の出土は、世界最古の土器・豆粒文土器の発見へとつながっていました。

## 中世の城跡

### 武辺城跡

（場所）竹辺町

将冠岳の西側のふもとの尾根上にあります。平成8年度の発掘調査では、東西80m、南北35mの本丸跡に7棟の建物跡が発掘されました。また、14世紀から16世紀前半の中国、朝鮮からの輸入陶磁器や、備前焼などの国内産の陶器も出土しました。松浦家の本家である宗家松浦氏は、もともと今福（現松浦市）に本拠を置いていましたが、15世紀の初頭ごろ、13代当主盛のとき本拠地を相神浦（相浦谷）に移し、武辺城を築きました。宗家松浦氏は、この後、大智庵城、飯盛城と居城を移しました。



▷武辺城跡遠望



◁武辺城跡本丸石積

### 直谷城跡

（場所）吉井町直谷 県指定史跡

福井川右岸の内裏山（167m）にあります。中央部には、南北約40m、東西50mの本丸跡があり、その両側に「天主台」、「櫓台」と呼ばれる高台があります。平成元（2）年度の発掘調査では、建物跡と16世紀初頭を中心とした中国からの輸入陶磁などが出土しました。

志佐氏の居城で、宗家松浦3代当主清の弟、志佐貞が築城したとも言われます。15世紀末ごろ田平にいた峰一族の支配下となり、朝鮮の役後、平戸松浦領となりました。



△直谷城跡本丸横の天主台